与野南小だより

11月号　令和8年10月30日発行　第7号

さいたま市立与野南小学校　【児童数】計388名
電話　831−0157

与野南小学校らしい「社会に開かれた教育課程」の実現

校長　宍戸　貴久

学校で過ごす時間のうち大部分を占めるのが学習（授業）の時間です。学校では学習の効果を高めるために様々な工夫をしています。

＜主体性を育むための工夫＞

９月末に６年生の修学旅行がありました。主な見学先は、日光東照宮、華厳の滝、竜頭の滝、湯滝、奥日光湯元温泉、中禅寺湖遊覧船、大谷資料館です。旅行に主体的に参加できるようにするために、旅行前に見学先についての調べ学習に取り組みました。調べたい事柄を自分で決めて調べ、実際に行って確かめ、帰ったらまとめるという流れです。そういった工夫により、児童は目的意識をもって各見学先で主体的に見学することができていました。他の学年でも、体験の機会をより豊かなものにするために、事前事後の学習を工夫しています。

＜外部人材を活用した学習＞

元麻薬取締官の方を講師に招いて薬物乱用防止教室を実施しました。講師を招かなくとも学習（授業）をすることはできますが、薬物乱用の怖さを知り、薬物乱用を絶対にしないという強い意志をもってもらうために、その道のプロを講師として招きました。その他にも、助産師さんを招いた誕生に関する学習、岩槻人形協同組合の方を招いた木目込み人形制作体験、税理士さんを招いた租税教室、クロネコヤマトさんに協力していただいての交通安全教室など、学習効果を上げるために外部人材を活用した学習（授業）も積極的に行っています。

そして、今後は、保護者や地域の方など、地域人材を活用した学習を積極的に行いたいと考えています。

これまで学校運営協議会では、コミュニケーション力の育成をテーマに掲げ、「あいさつ運動」や「対話の日」など、様々な取組を考えてきました。それらに加え、地域人材を活用した学習をさらに増やしていきたいと考えています。これまでも、１年・生活科「昔遊び」、２年・生活科「町たんけん」、高学年・家庭科「調理」「裁縫」などに、保護者や地域の方に加わっていただいたこともありました。そういった学習をさらに増やしたいと考えています。学校教育を通じて地域の子どもと大人が関わり合う機会を増やすことで、あいさつが増える、学習効果が上がる、地域のイベントが活性化するなどの成果が期待できます。

与野南小学校には、学校の教育活動に協力的な保護者、子どもを愛してくれる地域の方がたくさんいます。そんな与野南小学校ならではの強みを生かし、学校・家庭・地域が協働し、与野南小学校らしい「社会に開かれた教育課程」の実現を目指します。

「社会に開かれた教育課程」とは？
学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を、学校と社会が共有し、学校と社会が連携・協働しながら、児童に必要な資質・能力を育成することをねらいとしています。